

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	特発性間質性肺炎 (idiopathic interstitial pneumonias; IIPs) における臨床・画像・病理を含むデータベースの構築と臨床疫学的検討
研究責任者	内科学第二講座 教授 須田 隆文
研究機関名	浜松医科大学内科学第二講座
研究目的と意義	<p>特発性間質性肺炎は肺の慢性的な炎症や線維化により、咳、呼吸困難を生じる病気です。特に線維化により肺が固くなり肺活量が低下することが呼吸困難の主因となり、これは進行性や治療による効果判定の指標となるものです。</p> <p>特発性間質性肺炎の中には、ゆっくり発症するタイプである慢性型特発性間質性肺炎があります。その診断には、臨床所見と胸部 CT 画像所見、外科的肺生検病理所見を総合的に判断することが必要です。そのためには呼吸器内科医、胸部放射線科医、肺病理医が協調した包括的な取り組みが重要となります。しかし、各専門医師の不足や、検査が十分に行えず、病気の総合的な判断が出来ない施設もあり、本邦において特発性間質性肺炎の疫学や臨床像は十分には解明されていません。</p> <p>この研究の目的は、特発性間質性肺炎において臨床・画像・病理を含むデータベースを構築し、本邦における同疾患の疫学や臨床像を明らかにすることです。</p>
研究期間	西暦 2015 年 4 月 ～ 2018 年 3 月
研究方法	<p>●対象となる患者さん： 2009 年 4 月～2014 年 3 月に慢性型特発性間質性肺炎と診断され、外科的肺生検を実施された患者さん</p> <p>●研究に使用する試料： (1) 診療録 (2) 胸部 CT 画像 (3) 肺病理標本</p> <p>●研究方法 診療録から必要な情報を集め、これまでに撮影した胸部 CT 画像、外科的肺生検で得られた肺病理標本を集積し、データベースを構築します。呼吸器内科医、胸部放射線科医、肺病理医が協調して総合的に診断し、</p>

	<p>本邦における同疾患の疫学や臨床像を明らかにします。</p> <p>この方法は後ろ向き観察研究という方法で、新たに患者様への負担はかかりません。匿名化といって個人名を消去し、代わりに番号などを付与して処理を行うことで、誰のデータか分からないようにして、統計解析を行います。その結果は、呼吸器病に関する学会や医学雑誌に講評されることがあります。</p> <p>研究に組み入れられることを希望されない方は、担当医や下記の問い合わせ先にお知らせください。その場合、データ収集や統計解析は致しません。</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>〒431-3125 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学医学部附属病院 診療科：呼吸器内科 担当者：大学院 美甘真史・助教 藤澤朋幸 TEL：053-435-2263 FAX：053-435-2449 E-mail：mas.mik@hama-med.ac.jp</p>